

2016年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、広範囲で波列パターンが明瞭だった。西～中央シベリアでは正偏差が明瞭となり、中国東部では負偏差となった。偏西風は、ユーラシア大陸東部では平年の位置と比べて南よりを流れ、日本付近では平年の位置で強かった。月平均海面気圧をみると、西シベリアからサハリン付近にかけて高気圧偏差となり、太平洋高気圧は日本の南東海上で平年と比べて強かった。帯状平均した気温は、対流圏では広く高温偏差となり、北半球の中高緯度で明瞭だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド中部、ベンガル湾～東シナ海南部、インドネシア付近、太平洋の北緯10～15度付近で活発、インド洋西・中部、太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、中旬から下旬にかけてインド洋東部からインドネシア付近を東進した。対流圏下層では、東アジア南部では低気圧性循環偏差、日本の南東海上では高気圧性循環偏差となり、日本付近では南からの暖湿気流の影響を受けやすかった。対流圏上層をみると、チベット高気圧の勢力は平年と比べて強かった。南方振動指数は+1.3だった。

世界の天候

2016年9月の世界の月平均気温偏差は+0.42°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。9月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.64°C/100年（速報値）である。

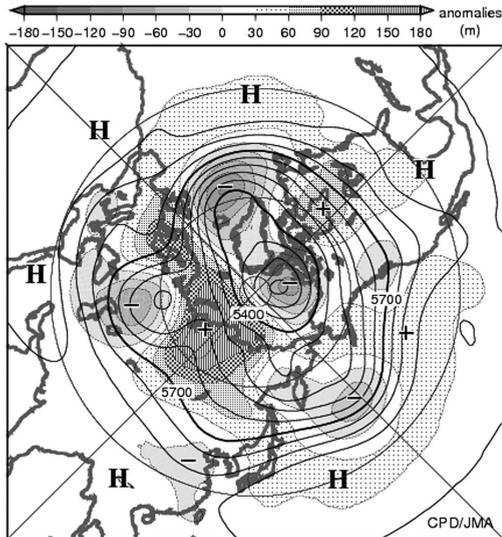
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中央・西シベリア～パキスタンで異常高温となった。
- ヨーロッパ北部～モロッコ北部で異常高温となった。
- オーストラリア北東部～ニュージーランド北部で異常高温、オーストラリア南東部で異常多雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

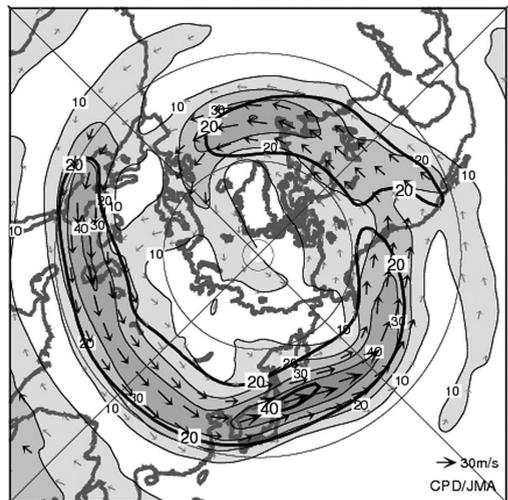
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



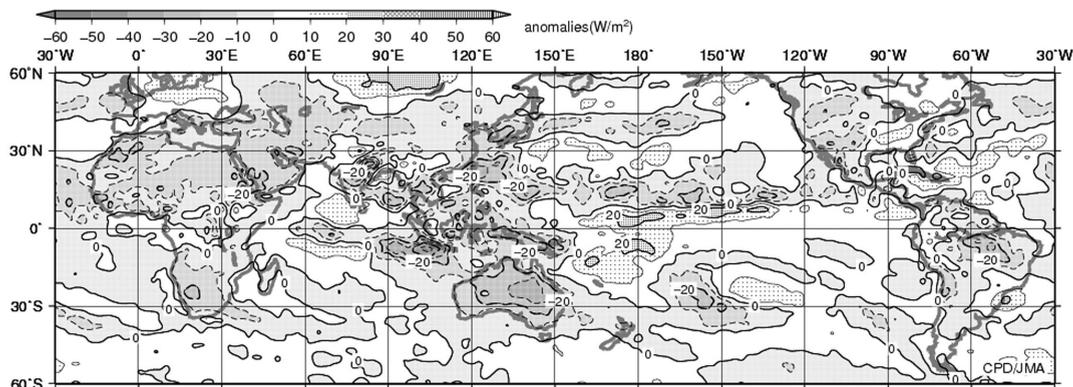
2016年9月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

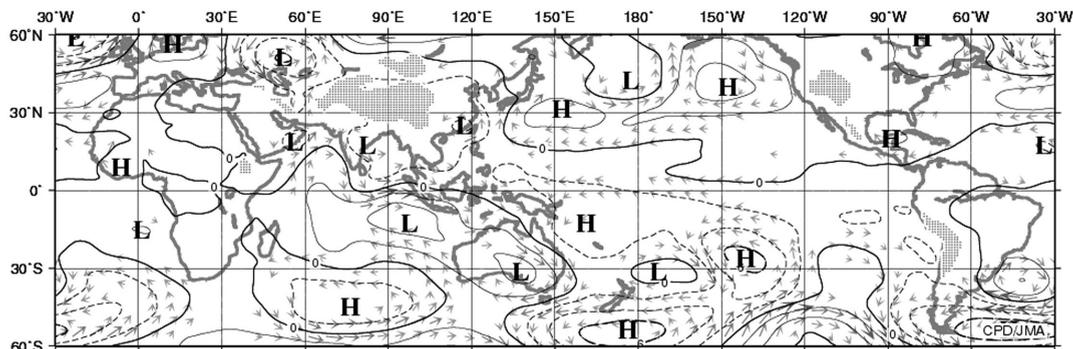


2016年9月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

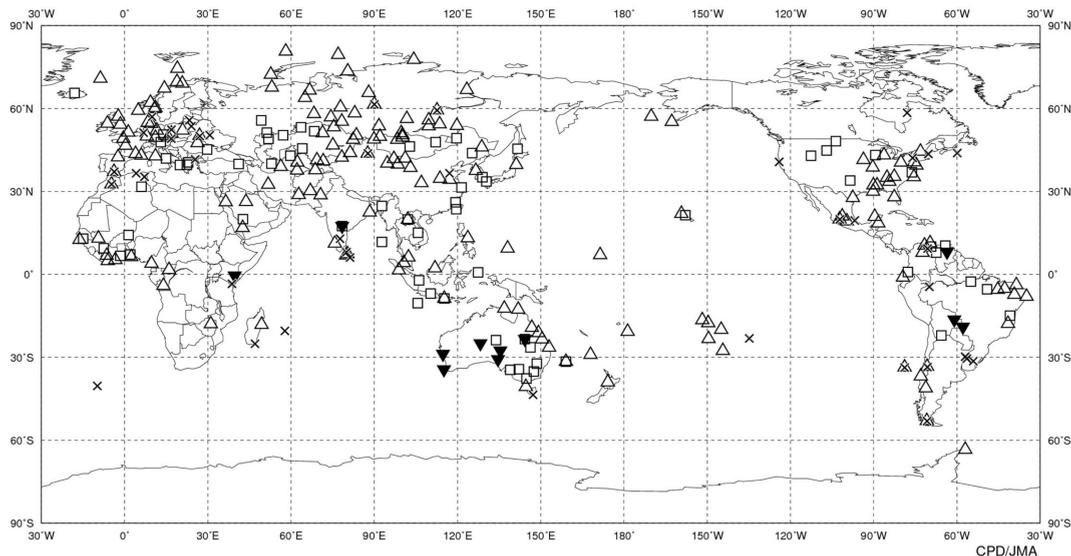
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年9月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。